

【同朋の会研修旅行 坂東報恩寺参拝】



横浜別院だより

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一-11-11
〒234-0051
FAXTEL
(〇四五) 841-13428
(http://www.yokohama-ootani.com)

朋と共に

輪番 森田 成美

去る、十一月十三日、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となつていた横浜別院同朋の会日帰り研修旅行が四年振りに実施されました。行き先は『歎異抄』の著者とされている唯円大徳開基の水戸市河和田町の報佛寺と、国宝『教行信証』（坂東本）を長く伝持された性信開基の台東区上野の報恩寺の二箇寺へ参詣致しました。当

日、別院を出る頃は曇天で雨の心配もありましたが、途中から晴れ間も見え、総勢二十一名で快適な一日を過ごさせて頂きました。

両御寺院と御住職から略縁起等、懇切な

お話を頂きました。

報佛寺について、同寺のリーフレットには「報佛寺は浄土真宗の宗祖親鸞聖人の直弟子唯円開基のお寺です。唯円は唯円大徳といわれ、宗意安心（念佛の信心をいただくこと）の旨趣に詳しく、本願寺第三世覺如上人の時代まで存命し、晩年親鸞聖人のご精神を継承して『歎異抄』を著し、宗意を明らかにし法燈（教えの灯）を擁護しま

した。」とあります。同じくリーフレットには、「唯円は俗名を北条平次郎といい、ひねくれた心を持ち、また物事の道理に暗い殺生を好む悪人でした。しかし、平次郎の妻は熱心な念佛者で、時々夫の目を忍んで親鸞聖人の草庵を訪れ、お念佛の教えを聴いていました。」とあり、それまで全く念佛の縁がなかつた平次郎が妻の深い因縁に依つて親鸞聖人の御教化に遇い、仏弟子唯円となつた経緯が書かれてあり、あらためて、念佛の教えに遇う不思議さを知られた事であります。

報恩寺は坂東報恩寺と呼ばれ、開基の性信は、親鸞聖人の直弟子二十四輩の第一とされ、「一二〇四年山城吉水の源空に帰依し、親鸞に師事した。親鸞とは常に行動を共にし、親鸞の帰洛に際しては、その後事を託され、云々」と『真宗人名辞典』にあります。

報恩寺の本堂に入つてお内陣を拝すると、御本尊阿弥陀如来と宗祖親鸞聖人の御木像が並列に御安置され御莊嚴されていて大変驚いたのですが、この宗祖の御木像は、帰洛する親鸞聖人に追随することを強く願う性信に対し、関東に残り、念佛相続と教化を託された宗祖親鸞自らのお姿を残していかれた、形見の御影と呼ばれる御木像であり、『教行信証』伝持とともに親鸞聖人の信頼がいかに篤かつたかを知ることが出来るものであった。『教行信証』と『歎異抄』という真宗門徒にとつて大切な御聖教に縁を持つ御寺院に参拝する有難い御縁を頂いたことであります。

